

標 題 : Complementary effect of Mediterranean diet and moderate red wine intake on haemostatic cardiovascular risk factors
止血性の心臓血管系危険因子に対する地中海食事と
適度な赤ワイン摂取の相補作用

著 者 : D. Mezzano, et al. (チリ チリカトリック大学 医学部 血液学・腫瘍学科)

掲 載 誌 : Eur. J. Clin. Nutr. 55: 444-451 (2001)

要 旨 :

目 的 : 緊急止血性心臓血管系危険因子(HCVRF)の血漿濃度に対する、無アルコールの地中海式食事および高脂肪食事の影響を比較すること。
また食事とは無関係に、赤ワインの補足が緊急止血性心臓血管系危険因子を変化させるかを試験すること。

計画、被験者、介入 : 対照比較、追跡介入研究。

健康な男性大学生 21 人の 2 群が(22±3.4 歳)、地中海食事または高脂肪食事を 90 日間摂取した。

30 日と 60 日の間に 240ml/日の赤ワインを両方の食事に補足した。

開始時、30、60 および 90 日のサンプルを採取した。

研究からの脱落者はなかった。

設 定 : 大学キャンパスおよび外来栄養クリニック。

結 果 : 高脂肪食事のボランティアは 30 日で、凝固促進剤のフィブリノーゲン(22%)、ファクターVIIc(9%)とファクターVIIIc(4%)の増加、および天然抗凝固剤のアンチトロンビンIII(3%)、プロテイン C(11%)とプロテイン S(6%)の減少およびプラズミノーゲン活性化因子阻害剤-1 の 20%減少があった。

同じときに地中海食事の人々は、フィブリノーゲン(4%)、アンチトロンビンIII(5%)、プロテイン C(3%)、プロテイン S(2.7%)の増加、およびファクターVIIc(9%)とプラズミノーゲン活性化因子阻害剤-1(21%)の減少があった。

開始時の値で調整した後で地中海食事は、血漿のフィブリノーゲン(P=0.03)、ファクターVIIc(P=0.034)とファクターVIIIc(P=0.0057)の低い値と関連し、そしてプロテイン S(P=0.013)の高い値と関連した。

両方の食事で赤ワイン補足は、血漿フィブリノーゲン(P=0.001)とファクターVIIc(P=0.05)の減少、および組織のプラズミノーゲン活性化因子抗原(P=0.01)とプラズミノーゲン活性化因子阻害剤-1 抗原(P=0.0003)の増加をもたらした。

ワイン摂取はまたアンチトロンビンIIIに対する有意に(P=0.01)相違する影響と関連した：高脂肪食事の人々でそれは 10%減少したが、地中海食事の人々で

は少し増加した。

血漿のプロテインCおよびC反応性タンパクには食事の影響もワインの影響も検出されなかった。

結 論： 地中海食事および赤ワインの適度な摂取は、緊急止血性心臓血管系危険因子に対して相補的に主に良い影響をする。

資金援助： チリ P カトリック大学

キーワード(Descriptors)： 食 事、ワイン、止 血、心臓血管系危険因子
